

# 『生きていくあなたへ』

～105歳 どうしても遺したかった言葉～

日野原重明 著

4月10日発売 630円(予価)+税 幻冬舎刊

30万部ベストセラーの文庫化にあたって、  
「死と向き合った最期の半年」を初収録！！



「不安と混乱の2020年、日野原先生が生きていたら、  
どんなふうにおっしゃるでしょうか？」

「生活習慣病」という言葉を発案し、また日本初の完全独立性ホスピスを設立。予防医学や終末期医療の発展に寄与し、105歳で天寿をまっとうするまで、生涯現役で患者の命と向き合い続けた医師、日野原重明氏。

生前活動されていた様々な団体では、冒頭のような問い合わせが絶えないそうです。新型コロナウイルスへの不安、問われる医療体制、超高齢化社会など・・・様々な問題と向き合わざるおえない現状の中で、改めて日野原先生の言葉が求められているのを感じます。

今こそ私たちの胸に響く、105歳の医師・日野原重明氏が最後に伝えたかったメッセージとは・・・。

生涯最期のインタビューをまとめた『生きていくあなたへ』の文庫版では、単行本には入らなかった「最期の半年間」を初収録。日野原先生が、自らの死とどう向き合ったのか、その最期のご様子をご家族によって綴られています。

## 【本書の内容】

- 第1章：死は命の終わりではない
- 第2章：愛すること
- 第3章：ゆるすことは難しい
- 第4章：大切なことはすぐにはわからない
- 第5章：未知なる自分との出会い

文庫版に寄せて：死と向き合った最期の半年 ——日野原真紀氏

【プロフィール】日野原 重明（ひのはら しげあき）1911年山口県生まれ。1937年京都帝国大学医学部卒業。1941年聖路加国際病院内科医となる。学校法人聖路加国際大学名誉理事長、聖路加国際病院名誉院長、一般財団法人ライフ・プランニング・センター理事長など。1998年東京都名誉都民、1999年文化功労者、2005年文化勲章を授与された。2017年7月18日逝去